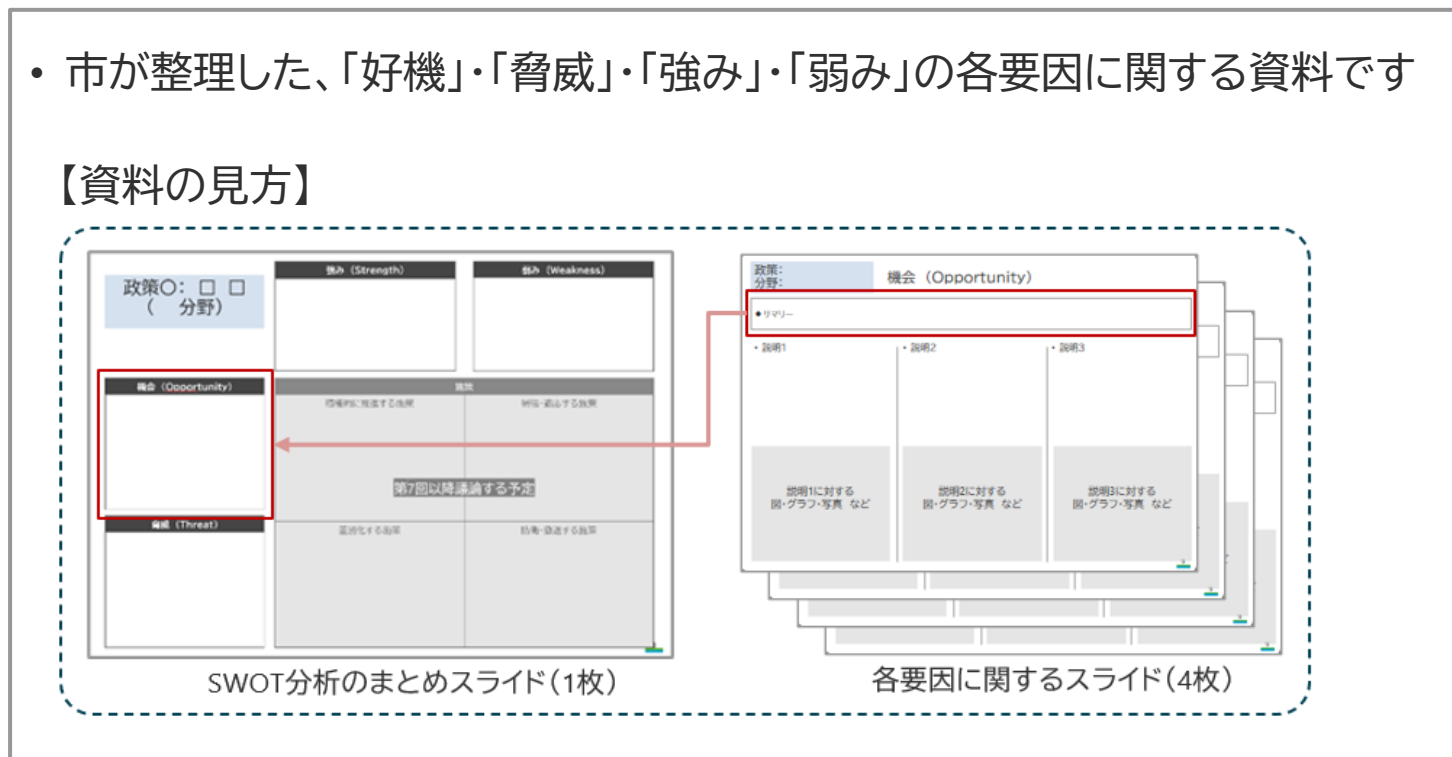


政策6：歴史・文化分野 現状と課題等の整理（SWOT要因分析）

- 市が整理した、「好機」・「脅威」・「強み」・「弱み」の各要因に関する資料です

【資料の見方】



政策6:協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生 (歴史 文化分野)

内部環境

Strength (強み)

1. 貴重な文化財を次代に継承していく取り組みを進めている。
2. 誰もが日頃の生活の中で文化芸術に触れることができる環境づくりを進めている。
3. 人生をより深く生きる力を身につけるため、子どものうちから読書を習慣化する取り組みを進めている。

Weakness (弱み)

1. 文化財を維持していくことが困難
2. 文化財保存や文化施設(設備)の老朽化対応のための財源確保が難しい。
3. 文化・芸術に対する市民の興味・関心が低い。
4. 社会教育学級・講座の参加者が減少
5. 市立図書館が十分に利用されていない。

Opportunity (好機)

1. 人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習・リカレント教育が推進されている。
2. 文化財を保護するだけでなく、国や県は、活用にも今後注力する方針を示している。
3. 芸術、美術においてもデジタル技術を活用したデジタルアート、NFTアートなどが注目を浴びている。

Threat (脅威)

1. 社会人になってからの自発的な学びをする人は、海外に比べて少ない。
2. 文化振興や伝統芸能、文化財保護の担い手が不足。生活文化等団体の会員数の減少。
3. だれでも楽しめる施設、設備を新しく導入するには、費用や専門家の支援が必要。デジタル技術は、進展が早いいため、活用にも迅速さが求められる。

施策

積極的に推進する施策

克服・適応する施策

第7回以降議論する予定

差別化する施策

防衛(撤退)する施策

政策6:協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生 (歴史 文化分野)

Opportunity (好機)

- 人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習・リカレント教育が推進されている。
- 文化財を保護するだけでなく、国や県は、活用にも今後注力する方針を示している。
- 芸術、美術においてもデジタル技術を活用したデジタルアート、NFTアートなどが注目を浴びている。

・国は、人生100年時代に、経済的豊かさのみならず精神的な豊かさから幸福や生きがいをつえる「ウェルビーイング」を目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会の実現を目指している。

・本格化する人口減少社会において、リスクリングを含めたりカレント教育による個人の生産性向上が求められている。

- 日本について誇りに思うこととして、「すぐれた文化や芸術」、「長い歴史と伝統等」が4割～5割と多い。
- 文化財保護法に基づき、静岡県では、文化財の保存とそれを支える人材育成の他、文化財の効果的な活用として、観光やまちづくり等との連携促進をおこなうこととしている。

・文化芸術分野や文化財保存において、デジタル技術の活用が進んでいる。また、周知・広報するための媒体も進化している。

・若い世代を中心に、電子配信による音楽、書籍、動画等の文化コンテンツを楽しむ傾向がより顕著になっている。

・図書館や資料館が資料のデジタル化に取り組んでいる。

・国が出版社に働きかけ、電子書籍を活用した読書バリアフリー化を推進している。

◇日本の国や国民について誇りに思うこと (内閣府)



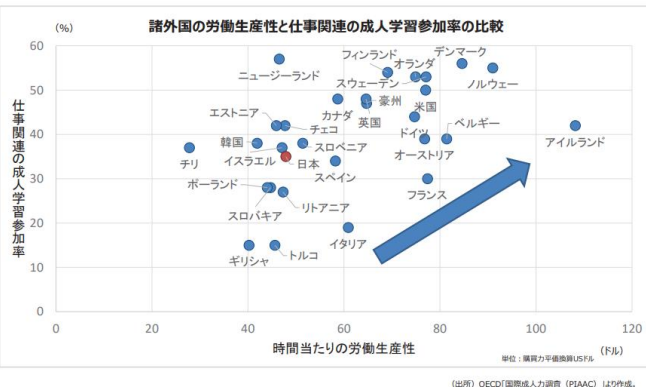
◇世界の動画配信・音楽配信・電子書籍の市場規模の推移及び予測 (総務省)



成人学習の参加率が高い国は労働生産性が高い

(出所) 第3回 教育未来創造会議 配布資料より

○仕事関連の成人学習参加率が高いほど、時間当たりの労働生産性が高い傾向にある。



(出所) OECD/国際成人力調査 (PIAAC) より作成。

政策6:協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生 (歴史 文化分野)

Threat (脅威)

- 社会人になってからの自発的な学びをする人は、海外に比べて少ない。
- 伝統芸能や文化財保護の担い手が不足。生活文化等団体の会員数の減少。
- だれでも楽しめる施設、設備を新しく導入するには、費用や専門家の支援が必要。デジタル技術は、進展が早いため、活用にも迅速さが求められる。

- 海外と比較して、日本では企業の人材投資が低く、加えて社会人になってから、自発的な学習をする人が少ない。
- 行政の実施する生涯学習講座では、高齢者やこどもの参加が多く、働く世代や若い世代などの利用が少ない。

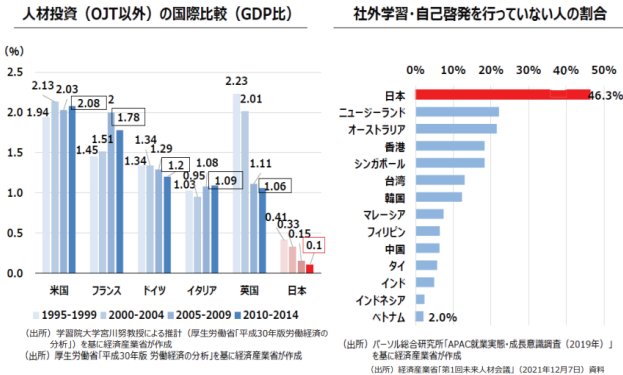
- 人口減少・少子高齢化に伴い、文化振興や伝統芸能、文化財保護の担い手不足が問題となっている。
- 生活文化等団体メンバーの固定化による高齢化や、会員数の減少に悩まされる団体が多い。
- デジタルアートは、デジタル・デバイドを生む可能性がある。

- 1か月に1冊も本を読まない人が62.6%(令和5年度文化庁調査)であり、前回より15.3ポイント増加している。
- オンラインミュージアムなど、整備、維持管理に対応できる一定の知識と費用が必要。
- 温暖化、風水害の発生が多発し、被災を受けた文化財の数や、復旧費が増大している。
- 全国の美術館や博物館で、障がい者を対象とした企画展等は少ない。

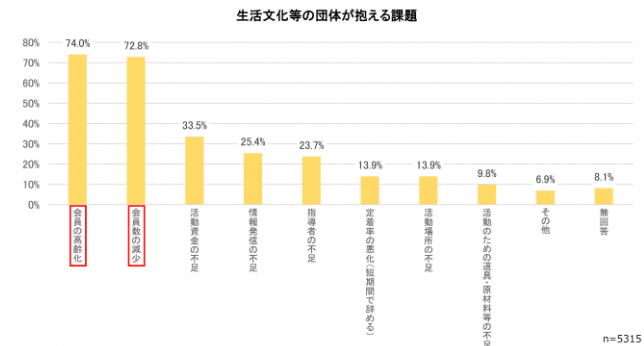
(出所) 第3回 教育未来創造会議 配布資料より

企業は学ぶ機会を与えず、個人も学ばない傾向が強い

○日本企業のOJT以外の人材投資 (GDP比) は、諸外国と比較して最も低く、低下傾向。
○社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は半数近くで、諸外国と比較しても不十分。

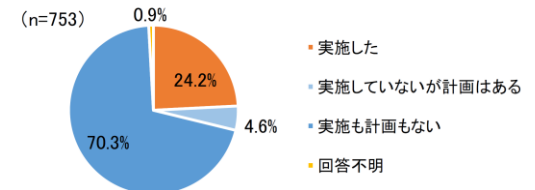


◇生活文化等の団体がもつ課題



◇障害のある方の鑑賞機会の増加に向け 実態調査(文化庁)

美術館・博物館における、これまでの、障害のある方の鑑賞機会の拡大に向けた企画展・常設展等の展示活動の実施状況



政策6:協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生 (歴史 文化分野)

Strength (強み)

1. 令和4年度に市文化財保存活用地域計画をいち早く策定(県内5番目)し、貴重な文化財を次代に継承していく取り組みを進めている。
2. 令和4年度に市文化振興計画を策定し、誰もが日頃の生活の中で文化芸術に触れることができる環境づくりを進めている。
3. 子ども読書活動推進計画に基づき、人生をより深く生きる力を身につけるため、子どものうちから読書を習慣化する取り組みを進めている。

・地域の貴重な文化財の価値を再認識し、コミュニティの再生や観光、まちづくり、教育などの分野で活用することにより、継承していく取り組みを進めている。

・地域の文化財保存活用推進団体と連携して文化財の保存と活用を実践している。

・文化財のデジタルアーカイブ化が進んでいる。

・特徴の異なる2つの文化施設において、芸術性の高いものから誰でも楽しめるものまで多様な文化事業を提供している。

・14の地区コミュニティセンターなど、身近な場所で文化に触れる機会を提供している。

・多様性の理解につながる障がい者アートを推進している。

・静岡理工科大学など高等教育機関との連携体制がある。

・市内全域に彫刻やモニュメントが設置されている。

・子ども読書活動推進センターを設置し、小中学校図書館等の環境整備を進めている。

・ブックスタート、セカンドブックに加え、新小学1年生におすすめの本を一人ひとりに直接手渡すサードブック事業を実施している。

・まちじゅう図書館推進事業の実施



政策6:協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生 (歴史 文化分野)

Weakness (弱み)

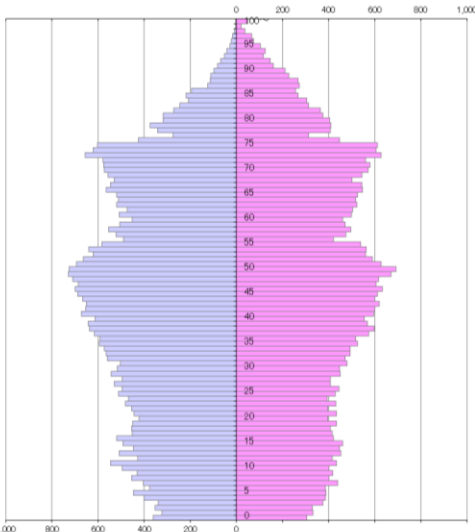
1. 地域の貴重な文化財を維持していくことが困難となっている。
2. 文化財保存や文化施設(設備)の老朽化対応のための財源確保が難しい。
3. 文化・芸術に対する市民の興味・関心が低い
4. 社会教育学級・講座において参加者の固定化や減少が見受けられる。
5. 市立図書館が十分に利用されていない。

- 少子高齢化等により、文化財の担い手が不足し、文化財の保存管理体制が弱体化している。
- 文化財の価値が地域住民に理解されていない。
- 文化財の保存のために必要なスペースや財源の確保が困難である。

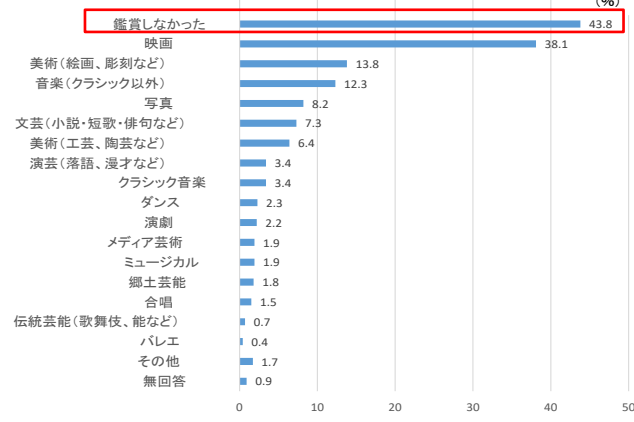
- 文化に対する市民の興味・関心は低い。
- 文化に親しむ機会が少ないと感じている人がいる。
- 文化・芸術に関する取り組みについて、満足度、重要度がともに低い
- 文化施設(設備)の老朽化への対応が必要であり、財源確保が課題である。

- コミュニティセンターにおける社会教育学級・講座事業において参加者の固定化や減少が見受けられる。
- 市立図書館内には、読書を楽しむためのスペースが限られている。
- 市立図書館と学校図書館の連携が十分でない。
- 児童生徒の読書量が減少している。

R05.04.01 袋井市 人口ピラミッド
(データ:住民基本台帳・外国人含む)



【令和3年度 市民意識調査】
昨年度に鑑賞した文化芸術 (%)



袋井市立図書館
貸出冊数・利用者数・来館者数の推移

